

# ハートランド平尾台株式会社

## I 法人の概要（平成 31 年 4 月 1 日現在）

- 1 所在地 北九州市小倉南区平尾台一丁目 1 番 1 号
- 2 設立年月日 平成 8 年 4 月 1 日
- 3 代表者 代表取締役 原口 紳一
- 4 資本金 364,800 千円
- 5 北九州市の出資金 88,200 千円（出資の割合 24.2%）
- 6 役員員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役員	9 人	0 人	1 人	8 人
常 勤	1 人	0 人	1 人	0 人
非常勤	8 人	0 人	0 人	8 人
職員	6 人	0 人	0 人	6 人

## II 平成 30 年度事業実績

### 1 事業の経過及び成果

#### (1) 経過

平成 30 年度は平尾台においては、ゴールデンウィークの天候不順、梅雨入り後の大雨、さらに西日本豪雨等による影響で、郷の入園者が激減し、売上も大幅に減少した。このため、ショップやレストランの営業を冬場の平日において休止するなど経費節減に努めた。

#### (2) 成果

##### ① 「平尾台自然の郷」の入園者数 209,124 人（平成 29 年度 280,751 人）

入園者数は、上期 131,397 人（前年度 199,462 人）、下半期 77,727 人（前年度 81,289 人）となった。上半期、下半期ともに減少し、通年では昨年度を約 7 万人下回った。

##### ② 「平尾台自然観察センター」の入館者数 39,980 人（平成 29 年度 39,578 人）

入館者数は、上期 25,820 人（前年度 25,751 人）、下半期 14,160 人（前年度 13,827 人）となった。上半期は前年度並み、下半期は前年度を上回った。

##### ③ 売上・利益

売上高は、211,512 千円、経常利益は、▲403 千円となった。法人税等控除後の当期純利益は、▲896 千円（平成 29 年度：727 千円）となった。

## 2 主な事業実施状況

### (1) 「平尾台自然の郷」

#### ア PR活動

- ・新規キャンペーンとして、春と秋にクイズキャンペーンを実施した。
- ・ゴールデンウィーク、夏休み、シルバーウィークに焦点を当て、地域情報誌・Web・駅貼りポスター等によりイベント情報の提供を行った。
- ・市内外の保育園・幼稚園（約 750 施設）にダイレクトメールを発送し、市内の関連施設に対し、チラシを配布した。
- ・各メディアへ積極的なプレスリリースを実施した。
- ・インバウンド対応として、海外ブロガーやテレビ局の取材への対応や、海外クルーズ船の団体への短時間ガイドサービスを提供した。
- ・園外の各イベント（まつりみなみ、陶磁器フェスタ等）に出店し、平尾台自然の郷の施設紹介を実施した。

#### イ 各種事業の実施（新規分）

- ・ニョロ先生と平尾台のいきもの探しと標本展（9月）を開催した。
- ・ギラヴァンツ北九州イベント（10月）を実施した。
- ・ワークショップ（下関ポート：1月）を出店した。
- ・郷入園者 500 万人達成記念セレモニー（3月）を実施した。

#### ウ 各種事業の実施（継続分）

- ・学校との連携イベントとして、小学校環境体験科授業（5～10月）、地元小学校と「平尾台ケイビング学習」（9月）、中学校野球部対抗駅伝大会（1月）を開催した。
- ・地域との協働イベントとして、平尾台観光祭（7月）、新米まつり（9月）、東谷フェスティバル（10月）、平尾台ふゆはなび（2月）、平尾台野焼き見学会（2月）を実施した。
- ・体験教室イベントとして、全日本素人そば打ち名人大会九州予選会（6月）、夏休み工作研究大作戦（工房体験、自然体験）（7・8月）を実施した。
- ・平尾台の特色を活かしたイベントとして、ガイドツアー（ケイビング、カルストジャングル冒険ツアー）や平尾台ボトムハンティング（3月）を実施した。
- ・スポーツイベントとして、トレイルランニングレース（4月）、ゾンビNight アスレチックマラソン（8月）、自転車障害物競走（シクロクロス）（12月）、クロスカントリー（3月）を実施した。
- ・音楽イベントとして、ブラスフェスティバル（4月）、高原ピクニックコンサート（7月）、民族音楽（フォルクローレ）コンサート（9月）を実施した。
- ・天体観測イベントとして、ペルセウス座流星群鑑賞会（8月）、獅子座流星群鑑賞会（12月）、新春初日の出見学会（1月）を実施した。
- ・写真展イベントとして、平尾台四季の野草写真展（6月）、フォトクラブ花蓮写真展（9月）を実施した。
- ・駐車場を活用したイベントとして、カーミーティング（5月・8月・10月・11月・12月）を実施した。
- ・その他のイベントとして、キャラクターショー（10月）、ブルーベリー摘み取り（7・8月）、こども凧揚げ大会（5月・8月）、芋ほり（10月）を実施した。

(2) 「福岡県平尾台自然観察センター」

- ・新規イベントとして、「パワースポット巡り」、「平尾台ミステリー」、冬季期間に「真冬の風穴巡り」等、平尾台ハイキングを実施した。
- ・平尾台散策道整備、外来種駆除、草刈、野草調査などにより、平尾台の景観維持、登山・散策者の安全対策に取り組んだ。
- ・野外イベントとして、平尾台ガイド散歩、ケイビング、登山（九州自然歩道、貫山、塔ヶ峯）、観察会（野草、野鳥、コウモリ）などを実施した。
- ・屋内イベントとして、ミニ門松作り体験を、特別展示として、写真展（野草、きのこ、鳥、動物、風景）やカルスト文化祭などを実施した。

### Ⅲ 平成 30 年度決算

1 貸借対照表（総括表）

平成 31 年 3 月 31 日現在（単位：円）

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	466,834,282	流 動 負 債	16,050,634
現 金 預 金	446,236,425	買 掛 金	520,565
売 掛 金	13,400,315	未 払 金	3,062,312
商 品	6,745,605	未 払 法 人 税 等	1,665,800
原 材 料	220,643	未 払 費 用	5,973,046
貯 蔵 品	77,394	賞 与 引 当 金	2,170,265
未 収 税 金	153,900	未 払 消 費 税	1,426,700
		預 り 金	1,231,946
固 定 資 産	66,671,068	負 債 の 部 合 計	16,050,634
（有形固定資産）	（66,379,868）	純資産の部	
建 物	2,004,167	科 目	金 額
構 築 物	638,257	資 本 金	364,800,000
車 両 運 搬 具	1,259,318	資 本 剰 余 金	73,837,619
器 具 備 品	9,571,868	その他資本剰余金	73,837,619
土 地	52,906,258	資本金及び資本準	73,837,619
（無形固定資産）	（291,200）	備金減少差益	
電 話 加 入 権	291,200	利 益 剰 余 金	78,817,097
		繰越利益剰余金	78,817,097
		株 主 資 本 合 計	517,454,716
		純 資 産 の 部 合 計	517,454,716
資 産 合 計	533,505,350	負 債 及 び 純 資 産 合 計	533,505,350

2 損益計算書（総括表）

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日（単位：円）

科 目		金 額	
経 常 損 益 の 部	(営業損益の部)		
	営業収益		211, 512, 177
	売上高	211, 512, 177	
	営業費用		212, 791, 182
	売上原価	187, 917, 139	
	販売費及び一般管理費	24, 874, 043	
	営業利益		▲1, 279, 005
	(営業外損益の部)		
	営業外収益		940, 438
	受取利息	89, 014	
その他の営業外収益	851, 424		
営業外費用		64, 000	
営業外利益		876, 438	
経常利益		▲402, 567	
益 の 部	特別利益		55, 555
	固定資産除却益	55, 555	
	特別損失		1
	固定資産除却損	1	
税引前当期純利益			▲347, 013
法人税、住民税及び事業税			549, 227
当期純利益			▲896, 240

IV 令和元年度事業計画

1 「平尾台自然の郷」

① 指定管理者期間のスタートに向けた取組み

令和元年度は新たな指定管理期間のスタート（指定管理の受託は4度目）の年にあたり、入園者や売上の減少傾向に歯止めをかけるため、予算をイベント費に重点配分することで集客増を見込むとともに、既存事業や事務処理について見直しを行う。

② PR 活動

写真投稿サイトを使ったインターネット上でのイベント実施や幼稚園、保育園、福祉施設へのチラシおよびDMの配布を実施する。

③ バーベキュー場の新設

恒常的な集客・売上増を目指すため、ニーズの高いバーベキュー場をキャンプ場とは別に開設する。

- ④ 飲食物販事業の収益改善  
 飲食物販事業の収益改善を図るため、レストランとショップを集約した結果、売場面積の縮小や閑散期の休業などにより売上の減少が懸念されるが、大幅に削減した経費（光熱水費等）をイベントや他の施策にシフトすることで、入園者の増加を図る。
- ⑤ カルストあそび場の活用  
 小学生環境アクティブラーニングで使用しているキャンプ場外周をカルストあそび場として一般入園者に提供する。
- ⑥ ボランティアの育成  
 平尾台で活動を希望する各種ボランティア（ガイド・登り窯）を育成する。
- ⑦ 他の施設との合同イベントの開催  
 他の施設とのコラボレーションによる自然体験イベントや陶芸等の体験教室の充実を図る。
- 2 「平尾台自然観察センター」
- ① 新規集客対策の実施  
 定例以外の登山やハイキングを増やすことにより、新規参加者やリピーターの増加を図る。
- ② 平尾台自然の郷との連携による事業の推進  
 平尾台ふしぎ発見隊（キッズレンジャー）の内容をより充実して実施する。  
 また、他のイベントや広報活動についても、効果的な事業推進を図る。
- ③ ノウハウの継承  
 社員の高齢化が進む中、今後のセンター業務を担う正社員の育成が必要なため、平尾台自然の郷から正社員1名を異動し、1年間をかけてノウハウを継承する。

## V 令和元年度予算

### 1 予定損益計算書

自 平成31年4月1日

至 令和2年3月31日（単位：千円）

勘定科目	令和元年度予算
(営業損益の部)	
売上高	215,000
売上原価	189,028
一般管理費	25,254
営業利益	718
(営業外損益の部)	
営業外収益	477
受取利息	87
その他営業外利益	390
営業外費用	0
営業外利益	477
税引前当期利益	1,195
法人税・住民税及び事業税	850
当期利益	345

## VI 役員名簿

令和元年7月1日現在

役職名	氏名	備考
代表取締役	原 口 紳 一	社長
取締役	大 下 徳 裕	北九州市 企画調整局長
〃	鮎 川 典 明	北九州市 産業経済局長
〃	東 義 浩	北九州市 建設局長
〃	清 水 宏	三菱マテリアル(株) 九州工場事務部長
〃	坪 井 治 夫	(株)ユアーズ 取締役管理本部長
〃	安 藤 俊 作	住友大阪セメント(株) 小倉事業所副所長
監査役	吉 野 浩 実	(株)西日本シティ銀行 北九州総本部長
〃	佐 保 吉 則	(株)マテリアル九州 取締役社長